



今月のテーマ：画像検査の違いって？



現在、医療現場では様々な画像検査が行われ、病気の早期発見と診断の手助けとなっております。ここでは簡単に各画像検査の違いと特徴についてご説明します。

- ①レントゲン検査：放射線を身体に照射することで、放射線が吸収された箇所とそうでない場所とを分けて、白黒画像として表示される写真です。放射線の吸収度合いから濃淡差として表示するため、カラー画像ではなく白黒画像が用いられています。主に胸部や腹部の病気、手足など骨の骨折が無いか確認する検査が多いです。手軽に受けられる放射線検査として、最初にこの画像検査がよく選ばれています。
- ②C T検査：レントゲン検査同様、ドーナツ型の機器から放射線を身体に照射することで白黒画像が作られています。レントゲンと違う点は、コンピューターを用いて身体の断面を輪切りにした画像が作れることです。そのため、身体を1mm単位で輪切りにして観ることができるので、病気の見落としを防ぎます。被ばく量はレントゲンよりも多いため、精密な検査が必要となった場合のみ検査が勧められます。当院のC T検査装置では、Volume EC という技術により、身体に照射する放射線量を自動調整することで被ばくを最小限に努めています。何度もC T検査をしても大丈夫なのか？ということをよく聞きますが、的確な線量管理に基づき検査を実施しているので、ご安心ください。
- ③超音波検査：超音波を発生させるプローブという機械をお腹や首に当てる検査です。原理としては、超音波が体内のあらゆる臓器（皮膚・内臓・骨）に当たり、その返ってくる音を計算して画像が作られています。主に心臓・腹部・血管などの検査に用いられています。放射線を使用しないため身体に害も無く、手軽にリアルな画像検査が直ぐにできるため緊急時の検査として行われる時もあります。しかし、広い範囲を観る検査には不向きです。また、骨や腸のガスなどにより超音波が届かないこともあります。
- ④M R I 検査：輪切りの画像でC T検査機器の形も似ているので混同されがちですが、放射線ではなく磁気を使った検査となります。そのため、最大のメリットは被ばくが無いことです。この磁気は金属を引っ張る力があるため、検査を受ける際は必ず身の回りに金属が無いか注意しましょう。主に筋肉や靱帯の状態や脳梗塞の確認、がんの有無の検査に用いられます。しかしペースメーカーを入れていると検査できない可能性があります。最近ではM R I 検査対応のペースメーカーもあるため、検査を受ける際に確認をしてください。

※M R I 検査は当院ではできないため、もし検査をご希望の方がいましたら、一度当院受診後に別の医療機関へご紹介することは可能です。



以上、簡単に医療現場で使われている画像検査の説明を終わります。また何か分からないことがありましたら町立病院放射線科までご連絡下さい。

文：肝付町立病院 放射線科

お問い合わせ先 肝付町立病院 ☎ 0994(67)2721

